

県内被害

カメとかぜ。亀工房の風を感じ方です。知らないこと、気がついた事、伝えたい事読者の方にも尋ねてみたい。それがこの連載。強く主張するわけではなく、でも誰かに伝えたいような…。聞いてみたいような…。こういう場があったから伝えられるそんな連載です。

地震 原発 火事 津波 そんな言葉に変更する必要がでてきました。これまでの災害は比較じゃありません。

今まで、私は過去に学んだ災害意識は強いものと思いこんできました。しかしどうですか？本当にそうだったでしょうか？

2011, 4, 16日。栃木県内の東部にある市において、地震の被害を診断する調査に行ってきました。地方自治体からの要請で、建築士が行う住家の被害の程度を判定するものです。栃木県東部地区では相当の被害がありました。私達も今後に生かし、また、住まう方も知っておく必要があると思いましたので、一部掲載いたします。

場所により被害は異なりますが、この地域の学校の校庭にはがれきの山がありました。これは、栃木県内の状況



です。右の写真は大谷石などの組石造りの塀や蔵の倒壊により発生した石の山です。栃木県でもこれだけの被害があります。内陸はあ



まりメディアに出ませんが、地震だけの被害でも東北全域と北関東では結構ありそうです。一部道路の液状化もみられました。液状化は海沿いだけだと思ったら違います。もとは沼地などの埋立

て地では起こりうるものです。それと地層の堅いところと弱いところの境付近の地盤は盛り上がりたり、沈んだりが起きていました。そういうところの地区では建物の被害が大きくなっていました。新しい家でも内装の被害はかなりあります。内壁はかなり振られてほとんど体力が残っていません。構造体がしっかりしていないと余震や今後の地震でまた被害を受ける可能性があります。下の写真では、基礎の鉄筋がむき出しになっています。鉄筋が地震で引っ張られてコンクリートのかぶり量が少なかったのが割れてしまったものです。地震の力の破壊力です。家主さんはいいました。「この重いピアノがここまで動いた」と。しかし実は逆です。重い車のブレーキがききにくいと同じで重いものがひとたび動き出したら止めるほうが大変な力になります。だからこそ屋根は軽い方が地震に強いのです。

震度6クラスの地震では、何らかの被害が想定されます。屋根材の落下や、ガラスの割れ、家具の転倒による怪我もあります。住まいに必要な防災機能と言うのもこれから問題になってくるでしょう。亀工房でも、いち早く地域にあった災害に強い住宅の開発も行おうと思っています。というのも、地震に加えて、台風や火災、洪水がありますがそれらにより被害を受けた時に対応すると言った住む方の危機管理マニュアルを備えたような、ハード面とソフト面を両立させた家というのも必要だとも思いました。耐震や耐火でガチガチに固めて建物は大丈夫！ということではなくて、もし、そうなった場合、どうしてあげばいいのか？という事です。あの原発の対応では、あらゆるロールプレイングができていたとは思いません。一、家庭においても、その地域において受ける可能性への対応を備えるべきだと思いました。確かに建築業者が、危機を想定するというのは自分たちの提供するものに不安材料を付けて売るようなものだと思うかもしれませんが、建築基準法や、品確法による耐震住宅でも倒壊の恐れがあるというのは、学者の想定を超えて起こったのは事実です。

それは最近起こった事実です。臭いものに蓋はしてはいけません。事実を理解したうえで想定しなければならないという意識が必要です。

もう安心を売る時代ではありません。

大切なのは備えです。



亀工房

<http://www.kame-kobo.jp>

ココをクリック！